

法政大学出版局●新刊のご案内

2025 年 7 月 7 日

通巻 **362-1** 号

- ① 配本希望部数をご記入のうえFAXにてご連絡をお願いいたします。
希望部数を優先して配本しておりますので、ぜひお申し込み下さい。
- ② 委託期間内返品可 配本後到着の注文書は注文扱いにて出荷させていただきます。
- ③ ★印の図書は特にご注目下さい。平積み頂ければ幸甚です。
- ④ 小局ホームページより、「新刊のご案内」最新号がダウンロードできます。

新刊委託

部数

法政大学出版局 2025年8月25日配本 定価3850円(本体3500円+税)

四六判上製・288頁

マリー＝モニク・ロバン 著／杉村昌昭 訳

細菌万歳！ 細菌たちが地球を守る(仮)

ISBN978-4-588-76209-3 C0040

★★ ぜん息や花粉症、アトピーといったアレルギーの罹患率はこの半世紀の間に急増し、アレルギーを引き起こす食物や物質の種類も増え続けている。その要因は、食生活・住環境の過剰な無菌化・人工化による人体の免疫システムの弱体化である。世界の環境問題に取り組んできた名ジャーナリストが著名な科学者たちに取材を重ね、微生物との共生・生物多様性の保護を訴える警告の書。

【環境問題・生物多様性】

☆関連書:M.-M. ロバン『なぜ新型コロナウイルスが、次々と世界を襲うのか?』、『モンサント』(以上、作品社)。

新刊委託

部数

法政大学出版局 2025年8月25日配本 定価3960円(本体3600円+税)

四六判上製・336頁

トリスタン・ガルシア 著／関 大聡、福島 亮、伊藤琢麻 訳

《叢書・ユニベルシタス 1188》

〈私たち〉とは何か(仮)

ISBN978-4-588-01188-7 C1310

★★ 私たちの民族、私たちの領土、私たちの国家と名指すとき、あるいは私たち労働者、私たちマイノリティ、私たちサバルタンと名のるとき、そこには政治が生まれ、歴史が前景化する。人びとを団結させ同時に分断する、多義的かつ可塑的なこの〈私たち〉という言葉のありようを歴史的・哲学的に分析する気鋭の挑戦。世界中で同一性をめぐる戦争が繰り広げられる今こそ読まれるべき政治思想の最前線がここにある。

【哲学・思想】

☆関連書:トリスタン・ガルシア『7』(河出書房新社、近刊)、『激しい生——近代の強迫観念』(人文書院)。

新刊委託

部数

法政大学出版局 2025年8月25日配本 定価8140円(本体7400円+税)

四六判上製・606頁

アラスター・J・リード 著／齊藤健太郎 訳

《叢書・ユニベルシタス 1185》

イギリス労働組合史 団結する「働く人びと」とリベラリズム

ISBN978-4-588-01185-6 C1330

本書は、労働者を「労働者階級」ではなく「働く人びと」とする見地に立ち、いわゆる階級史観ではなく包括的な労働組合史を目指す。産業や業種についての詳しい分析とともに社会の中での労働者の位置づけを探求し、さらには代表的な労働組合主義者の自伝からの引用などで、組織としての労働組合だけでなく、働く労働者の姿を描き出す。労働組合の意義が問い直される現在、本書は大きな意味をもつだろう。

【歴史・社会】

☆関連書:ハンフリーズ『イギリス産業革命期の子どもと労働』、山本卓『二〇世紀転換期イギリスの福祉再編』(小局刊)。

新刊委託

部数

法政大学出版局 2025年9月9日配本 定価5280円(本体4800円+税)

四六判上製・432頁

ペーター・ハントケ 著／元吉瑞枝、阿部卓也、服部 裕 訳

《ハントケ・コレクション》

ハントケ・コレクション3 『冬の旅』ほか4篇

ISBN978-4-588-48613-5 C0097

★ ノーベル文学賞受賞作家の作品集第3巻は、ユーゴスラヴィアをめぐる90年代～2000年代の主要なエッセイ5作品を収録。ユーゴ解体について声を上げた最初のテキスト『第九のくにからの夢想家の別れ』、セルビアとボスニア・ヘルツェゴヴィナを訪れて書き記した『冬の旅』『冬の旅への夏の補遺』、NATOによる空爆を批判した『空爆下のユーゴスラヴィアで』、ミロシェヴィッチ裁判の報告『ダミエルのタブラス』。

【海外文学】

☆ノーベル文学賞受賞作家の本邦初訳を多数含む作品集、全3巻完結！

新刊委託

部数

法政大学出版局 2025年9月上旬配本 定価3300円(本体3000円+税)

四六判上製・238頁

川田啓介 著

《ものと人間の文化史 192》

牛

ISBN978-4-588-21921-4 C0320

★ かつては田を耕し、山から伐り出した材木を運び、塩の袋を背に街道を歩いた牛は、農業の機械化や自動車の登場によって役牛としての役割を終え、都市の風景から姿を消して久しい。しかし今もなお、牛は乳牛・肉牛として、人間との深いかわりを持ち続けている。本書は、その生物学的特徴、日本への渡来経路や品種改良について述べるとともに、牛をめぐる信仰や闘牛等の民俗、郷土玩具までを論じ、食文化の未来をも展望する。

【動物文化史】

☆関連書:遠藤秀紀『ウシの動物学 第2版』(東京大学出版会)、中澤克昭『肉食の社会史』(山川出版社)。

ご担当者様 氏名: [] 担当ジャンル: [] TEL: []

【お願い】

配本の際、ご担当者様の記名が必要となりました。

ご面倒とは存じますが、ご担当者様欄のご記入をお願い申し上げます。

法政大学出版局

〒102-0073 東京都千代田区九段北 3-2-3

Tel. 03-5214-5540 E-mail: sales@h-up.com URL: https://www.h-up.com/

Fax. 03-5214-5542